

祐善寺だより

第8号

発刊日

2002年8月7日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡朝日町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



花には

人間のような

かけひきが

ないからいい

ただ咲いて

ただ散って

ゆくからいい

ただになれない

人間のわたし

相田みつを

蓮如上人五百回御遠忌等法要 盛儀のうちに円成!



法要には雅楽を演奏する楽人も出勤。本堂は参詣者で満堂となった

蓮如上人五百回御遠忌、当寺第二十世住職大慶院釈正謙・大壽院釈尼貞勝五十回忌法要は、去る五月二十六日(日)、本堂が溢れるばかりの参詣者と大勢の可愛いお稚児様をお迎えして、盛儀のうちに厳修されました。

五月の前半はまた、雨天の日が多かったため、当日のお天気も心配されましたが、大変良いお天気に恵まれましたことは、とても有り難いことでした。

今回の御遠忌法要には、朝日町で製造されたマリimbaによる真宗讃歌のミニコンサートや約二百組のお稚児様加わって、参詣者の心も、より一層和んでいたようでした。皆様、本当に有り難うございました。

御遠忌法要アラウカルト

準備



前日の準備も大勢のご門徒さんの協力により行われました

力頂く方も増え、法要一週間前の日曜
日や法要前日は、実に多くのご門徒が
準備作業に協力していただきました。

当日の運営には、六十人を超えるご門
徒が、諸係を分担していただきました。
これらの尊いご支援、ご協力なしには、
法要全般の円滑な運営は無かったと言っ
ても過言ではありません。

マリンバ演奏

マリンバは、朝日町の特産品といっ
ても過言ではありません。その朝日
町佐々生にあるおろぎ社でマリン
バ製作に携われ、現在はプロのマリ
ンバ奏者として県内外で活躍されて
おられる平岡愛子氏に、真宗讃歌を

大慶院・大寿院 五十回忌法要

先代住職 先々

代坊守五十回忌
法要は、午前九
時半、雅楽が奏
でる中で始まり
ました。導師は、
北海道網走市永
専寺住職、添え
の調声は、同じ
北海道温根湯の
照恵寺住職に勤
めていただきました。



先代住職・大慶院 先々代坊守大寿院五十回忌法要の御荘厳



祐善寺本堂に平岡愛子氏のマリンバの演奏が響いた

演奏していただきました。

平岡愛子氏は、ご幼少の頃、近くの
お寺の日曜学校で「恩徳讃」等の真宗
讃歌を既にマスターされておられて、
今回のこちらの企画にも、とても好意
的に応じていただきました。

今回の蓮如上人五百回御遠忌等法要
を迎えるにあたって、御遠忌法要厳修
実行委員会を組織して準備にあたって
きました。

また、法要が近づくに従って、ご協

稚児受付



稚児受付・着付会場は泰澄の杜。広いロビーも稚児の家族で大賑わい

お稚児様の受付・着付会場は、朝日町小倉の温泉宿泊施設「泰澄の杜」をお借りしました。泰澄の杜で稚児衣裳に着替えたお稚児様から順に、シャトルバスで、稚児行列出発点付近の稚児待機宿まで移動していただきました。

これは、とても好評で、稚児行列終了後、泰澄の杜へ戻ってきたお稚児様やご家族の皆さんが、ソフトクリーム売場に殺到して、泰澄の杜開館以来初めての長い行列ができた程だったとのことです。帰りに、温泉に浸かって暑かった稚児行列の汗を流されたご家族も多かったのではないかと、思います。

稚児行列と温泉の二重の想い出をお子様達に残されたことでしょうか。

稚児行列

御遠忌法要等、大きな法要にお稚児様は欠かせません。しかし、少子化傾向のなかで、お稚児様が集まるかという心配がありました。昨秋からご門徒さんが熱心に、各方面へ口コミでお稚児様を募集していただき、当初の目標をはるかに超えて約二百組のご参加をいただきました。

当日は、お天気にも恵まれ、新緑のなか、お子様の健やかな成長を願い、祐善寺参道の石段を上り、本堂で仏様にお参りする稚児参道列は滞りなく整然と進められました。



好天に恵まれた稚児行列。森バス停から祐善寺本堂までの道のりを汗をかきながら歩きました

蓮如上人五百回御遠忌法要

本願寺第八世の蓮如上人は、現在の本願寺教団の基礎を築き、「本願寺中興の祖」とも崇められる越前にゆかりの深い上人であります。当寺も蓮如上人の吉崎行化の際に、上人の教化によって天台宗から真宗に帰依したという歴史があります。蓮如上人は、一四九九年に亡くなられて、御本山では四年前に五百回御遠忌法要が厳修されました。

蓮如上人五百回御遠忌法要は、午後一時半から始められ、浄勝寺住職が経導師、風巻・浄明寺住職が添え勤めの調声を勤められました。法中寺院は十カ寺、助音僧十人、楽人十人が全て



御遠忌法要で表白を拝読する住職

のエネルギーを出し切るかのように賑々しく御遠忌の勤行をおつとめました。

記念講演



記念講演の講師は藤枝宏壽師
参詣者は藤枝師のお話しに感動した

法要の締めくくりとなる記念講演は、福井医科大学名誉教授で武生市押田・了慶寺住職の藤枝宏壽師にお願いしました。藤枝師は、永年、教育者としても教壇に立っておられたためか、お話もとてもわかり易く、とても感動的でした、という感想を何人からも寄せられました。

法要 だより



行で、参詣者も法悦にひたりました

記念講演講師 藤枝宏壽師より

昨日は若葉緑に包まれた初夏好天の下、貴山大法要が盛大に無事円成されましておめでとござい
ました。

御住職を中心にご門徒の方々が結集され細大洩らさず周到にご計画準備が行き届いており、お詣りさ
せて頂いて、そのご熱意が伝わって来る思いでした。

大勢のご法中、参詣者、お稚児さん、それにご門徒のお手伝い等々、祐善寺様に曾てないほどのお賑
わいでしたでしょう。

その中、あれだけ厳肅に、荘厳裡に進行しました事、それまでのご準備が大変であったと思います。

斯かる盛儀に、お詣りさせて頂くだけでも有り難いのに、晴れがましくも「記念講演」まで仰せつか
り光栄の至りでありました。緊張してしまい、思うようにお話が出来なかつた事、言い足りなかつた事、
言い過ぎた事など多々あり、申し訳なく思っております。然るに過分な御芳志を頂き恐縮している次第
です。どうぞご門徒の方々によりしくお伝え下さい。

頂戴しました記念出版の「温故知新」を拝見しますと、大慶院様の緻密なご研究の跡が記されており
ます。折にふれ精読させて頂きます。貴重な資料をご出版になり、実に有意義なご企画であったと思
います。

何日にも至るご準備、又当日の大変なお気遣い等で、どれ程お疲れでありましょう。どうぞご家族の
皆様共々にお疲れ直しされ、又新たな一步を踏み出して下さいます様念じ上げます。ご心配かけました
母も今朝はゆつくり起きて来まして、只今、朝食をとっています。昨日の悦びが顔に表われている様で
す。本当に有り難うございました。

記念演奏奏者

平岡愛子氏より

先日はマリンバの演奏をさせて頂きま
しまして、本当にありがとうございます
た。このようなご縁に恵まれました事、
たいへん感謝しております。

マリンバで、初めて仏教讃歌を演奏さ
せていただきましたが、どの曲も心温ま
るメロディーで、練習して、私も心
和み、温かい気持ちになりました。演奏
曲目等、皆様に喜んでいただけたかどう
か不安な気持ちもありますが、一緒に口
ずさんでくださったり、熱心に耳を傾け
てくださったり、また、アンコールまで
いただきまして、たいへん嬉しく思っ
ております。

今までいろいろな曲を演奏してしま
したが、今回、小さい頃学ばせていただ
いた「真宗宗歌」等、私の大好きなマリン
バで演奏する事ができました。これから
も多くの方々とのご縁を大切に、感謝し
ながら、日々精進いたします。まだまだ
未熟な私ですが、今後ともどうかよろし
くお願い申し上げます。

本当にありがとうございます。
乱筆、乱文お許しください。

御遠忌 おたよ



御遠忌法要は、ふだん遇うことのない重い勤

ご門徒 松島和子氏より

梅雨の前ですが、暑い日が続いておりますが、皆様お健やかに過ごしてでしょうか。あまり外出しないのでおりますので、大変御無沙汰しております。

先日は記念品を送って戴きまして有難うございました。参詣出来なくほんとうに失礼致しました。記念出版で先代の御住職様の御写真を見させて戴きましてとても懐かしくうれしく思いました。それに今まで知らなかった御立派な御遺業を読ませてもらい、改めて御尊敬致しました。

御仏前を大変遅くなつてしまいましたすみませんでした。少々で申し訳ございませんが、御納入下さる様お願い致します。いつも御無礼ばかりしておりますすみません、今後共よろしくお願い致します。

末筆になり申し訳ございませんが、御健康に十分お気を付け下さいませ。

参詣者 上系生 渡辺照子氏より

この度は、素晴らしいお天気に恵まれました良き日に立派な御法要、可愛い稚児行列を無事終えられ、御住職様はじめ皆様様どんなにか御安堵・御喜びの事と存じます。又、私共も大変お世話になりました事、心より御礼申し上げます。

藤枝先生の御講演に寄せて頂きましたが、心打たれるお話に感動深く、仏法への御縁というものを感じさせて頂きました。老いてなお、リンとしたお姿で本堂にお出ましの大奥様の御苦勞を伺いながら、祐善寺様の御繁栄を祝し、御住職様御夫妻のお人柄を尊いつつ、益々の御発展をお祈りさせて頂いた次第です。お疲れの出ませぬ様、皆々様の御健康をお祈り致しまして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

函館市 中山諦子氏より

この度は御遠忌法要及び御年忌法要が晴天に恵まれ、無事に大盛儀に終えられましたことは誠にめでたうございます。又、前御住職様の記念誌等編集の御苦勞や準備は大変な事であったと思われれます。どうぞお身体を御自愛なさいます、慶事後の処理をなさって下さいますようお願いいたします。

最後になりますが、数々の記念の品ありがとうございました。

泰澄の杜より

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度は、当朝日町自然とのふれあいの里 泰澄の杜をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。従業員一同、心より厚く御礼申し上げます。

今後共、皆様方にご満足いただけますよう、万全を期し、努力してまいります。所存でございますので、一層のご愛顧、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝で、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

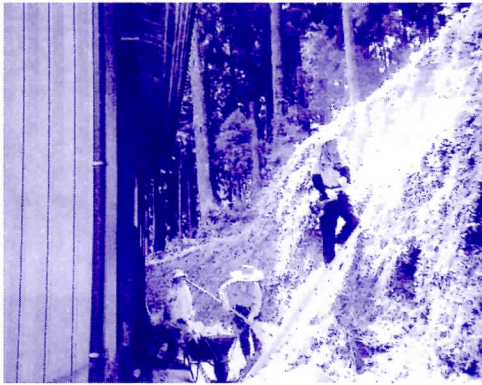


炎天下での 草刈り奉仕作業!

毎年、梅雨明けしてすぐ、炎天下での草刈り奉仕作業が、朝日町在住のご門徒さんによって、三年の輪番制で実施していただいております。

今年も、七月二十七日、三十三度の炎天下で小倉・大城野のご門徒さんを中心に、寺総墓から境内や車道の急傾斜の土手まで、草刈機や鎌で茂る草を刈っていただきました。実に変な作業であります。

本堂に有り難く思います。寺は門信徒共有の財産であります。このような尊い奉仕のお心で、御先祖より代々寺が護持されてきたのです。心から感謝申し上げます。



本堂裏の急な土手でも足場を気にしながら草刈りをして下さいました。

其の四



三具足 花・香・ローソク(1)

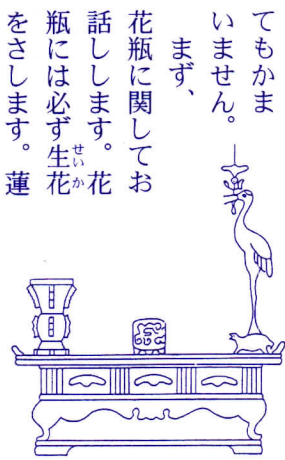
今回からは、お内仏に必要な仏具類(花瓶や香炉など)についてお話しします。

仏具は、宗派によって形が異なりますし、大きさもありますので十分注意してください。ここでは、どんなに小さいお内仏でも、必ず揃えなければならない仏具を中心に話を進めたいと思います。

お内仏(浄土)の荘厳(お飾り)になくしてはならない仏具を三点あげますと、お花を供える花瓶、香を燃やす香炉、ローソクを灯す燭台になります。それらを総称して三具足といえます。

三具足は、お内仏の中央正面中段の前卓に、向かって左から花瓶(真鍮製、土香炉(陶器の香炉)、鶴亀の燭台(真鍮製)の順に置きます。これらの仏具を使って、お内仏をお飾りするわけです。

お内仏の中の前卓(机)の上に、向かって左から花瓶・土香炉・鶴亀の燭台の順に置きます。お内仏が小さく、前卓が置けない場合は、前卓を省略し



てもかまいません。まず、

花瓶に関してお話しします。花瓶には必ず生花をさします。蓮の花をかたどった金色の造花もあるようですが、浄土真宗では決して用いません。四季折々の生きた木花や草花をお供えます。そして、お供えたお花(花瓶)は、ご本尊を背にし手前が正面になるように飾ります。

お内仏にお花をお供えるのは、亡き人の死後の幸せとか成仏を願うためではありません。人生の本来に尊いことを教える仏さまを讃え、仏前を荘厳(お飾り)するためです。

そして、お飾りした花は浄土のはたらきを私たちに示していることになり、生きた花と生きたいの姿を、花という形をとおして私たちに示しているのです。花は私たち人間の手に供えるのですが、供えた花は私たちの方に向かって、いのちの大切さを問いかけているのです。

ですから、生きた花を私たちに方に向けてお供えるのです。また、ドライフラワーなどの枯れた花もあげませんので、枯れたら立て替えるようにしましょう。夏場は枯れるのも早いものです。ご家庭で丹精込めて育てたお花をあげるのもよいことです。(サンガ)より

平成14年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互つて護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や本山奉仕 団補助等、教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境 維持費用
- ・ 福井別院御遠忌負担金
- ・ 本山相続講、福井教区賦課 金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で任職が貴 家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座

(〇〇七七〇―九一三〇七二一)

・ 加入者〓祐善寺)

へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

第8回

正信偈講座

我亦在彼攝取中
 煩悩障眼雖不見
 大悲無倦常照我
 本師源空明佛教
 憐愍善惡凡夫人
 真宗教証興片州
 還来生死輪転家
 決以疑情為所止
 速入寂靜無為楽
 必以信心為能入
 弘經大士宗師等
 拯濟無辺極濁悪
 道俗時衆共同心
 唯可信斯高僧説

そして、私もまた阿弥陀様の光明の中に照らされているのに、

煩悩のため、眼が曇って見えない。

しかし、阿弥陀様の大悲は、常に私を照らしているのです。

私の師である源空上人は、佛教をきわめて、

全ての善悪、凡夫をあわれみ

真実の教えを、この日本の国に広め

阿弥陀様の誓いを選び、この汚れた世に広めたのです。

上人は、人々が迷いの世界で輪廻を繰り返すのは

佛様の真実の智慧に対して疑いの気持ちがあることに気付き

速やかに、完全なる浄土に生まれるためには

必ず信仰心による、と説きました。

經典を広められた三つの国の菩薩、祖師、高僧方は

この世で、果てしない欲望にとらわれた人々を救おうとされた

のです。 全ての人々、僧も在家の人も、現代に生きる人々は、心一つにして

おくやみ

前・門徒総代駒 英二様（朝日町天谷）には、二月二十二日、行年八十二歳にて往生の素懐を遂げられました。御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



上野ふじの様（朝日町新店）には、六月十六日、行年八十八歳にて往生の素懐を遂げられました。御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発刊を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。

どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。ごしごしご投稿下さいますようお願いいたします。

お知らせ



永代経会

八月七日(水)

十二時

御齋

二時

永代経会

二時三十分

法話

大門照忍 師

三時三十分

物故者総墓収骨

どうぞご参詣下さいませ
すように。

福井教区第四組

夏期講習会

八月三十日(金)

二時

研修会

講師 幸村 明 師

金沢真宗学院指導

「平野修選集」編集主幹

金沢幸圓寺住職

皆様のご参詣をお待ち
しております。

入門 介護保険⑧

訪問看護とは？

看護師や保健師等が、介護を必要とする高齢者の自宅を訪問し、日常生活の療養上のケアや診察の補助を行うことです。

具体的には、要介護高齢者の病状観察、清拭、入浴介助、食事や排泄の介助、床ずれの処置、尿管カテーテルの管理、点滴の管理・指導、日常動作訓練等のリハビリテーションや、要介護高齢者や家族からの相談にのったりします。

訪問するスタッフは、看護師や保健師のほか、作業療法士、理学療法士等で、主治医の指示に基づいて、訪問看護ステーションから派遣されます。

利用するには、市町村による要介護認定を受け、主治医が訪問看護の必要性を認めることが必要です。自己負担額は、利用料の一割です。利用できる訪問回数は、原則として週三回以内、一回あたりの所要時間は、三十分から一時間半が目安です。

編集後記

★去る五月二十六日に厳修しました運如上人五百回御遠忌等法要には、皆様には大変お世話になりました。お陰様にて、法要は実に盛儀のうちに円成することができましたことを、大変有り難く、また、大変嬉しく思うものでございます。

★お稚児様が集まるか？当日のお天気は良いか？お参りはあるか？等々心配だらけでしたが、それらは全て杞憂に終わり、本堂は参詣者で満堂となり、約二百組のお稚児様のご参列をいただき、お天気も最高で、本当に最高の法要をお勤めできました。ご協力頂きましたご門徒の皆様、ご参詣くださいました門信徒の皆様、稚児行列にご参列頂きました可愛いお稚児様とご家族の皆様、そして、この法要に快くご協力下さいましたマリンバの平岡愛子様、記念講演の藤枝宏壽様、更に始終ご出勤下さいました法中・助音、楽人の皆様、本当に有難うございました。

★この法要の円成を糧としながら混迷する現代に対応する寺のあり方を追求してまいりたい、と願っております。どうか、今後共ご支援下さいませようお願ひ申し上げます。

★今年の夏も暑いです。皆様、くれぐれも御身に自愛下さい。(岡崎)